

令和7年度 ちばDXセミナー 生成AI活用の最前線

企業や働く人における生成AIの活用実態

株式会社 ちばぎん総合研究所
調査部 副部長 観音寺 拓也

会社及び自己紹介

【会社紹介】

(株)ちばぎん総合研究所は、千葉銀行のグループ会社の専門シンクタンクとして、県内の経済・産業動向の調査・研究のほか、企業や自治体の業務受託を通じて、各種調査・計画策定、コンサルティングを実施。

【自己紹介】

平成14年に千葉銀行へ入行、平成22年2月よりちばぎん総合研究所へ出向。県や市町村など自治体及び民間企業からの業務受託調査を実施。

令和7年度に「中小企業のデジタル化・AI活用」のレポート執筆、同年にAI活用推進セミナーを開催。



「中小企業のデジタル化とAI活用」レポートの調査概要

調査の内容

【調査目的】

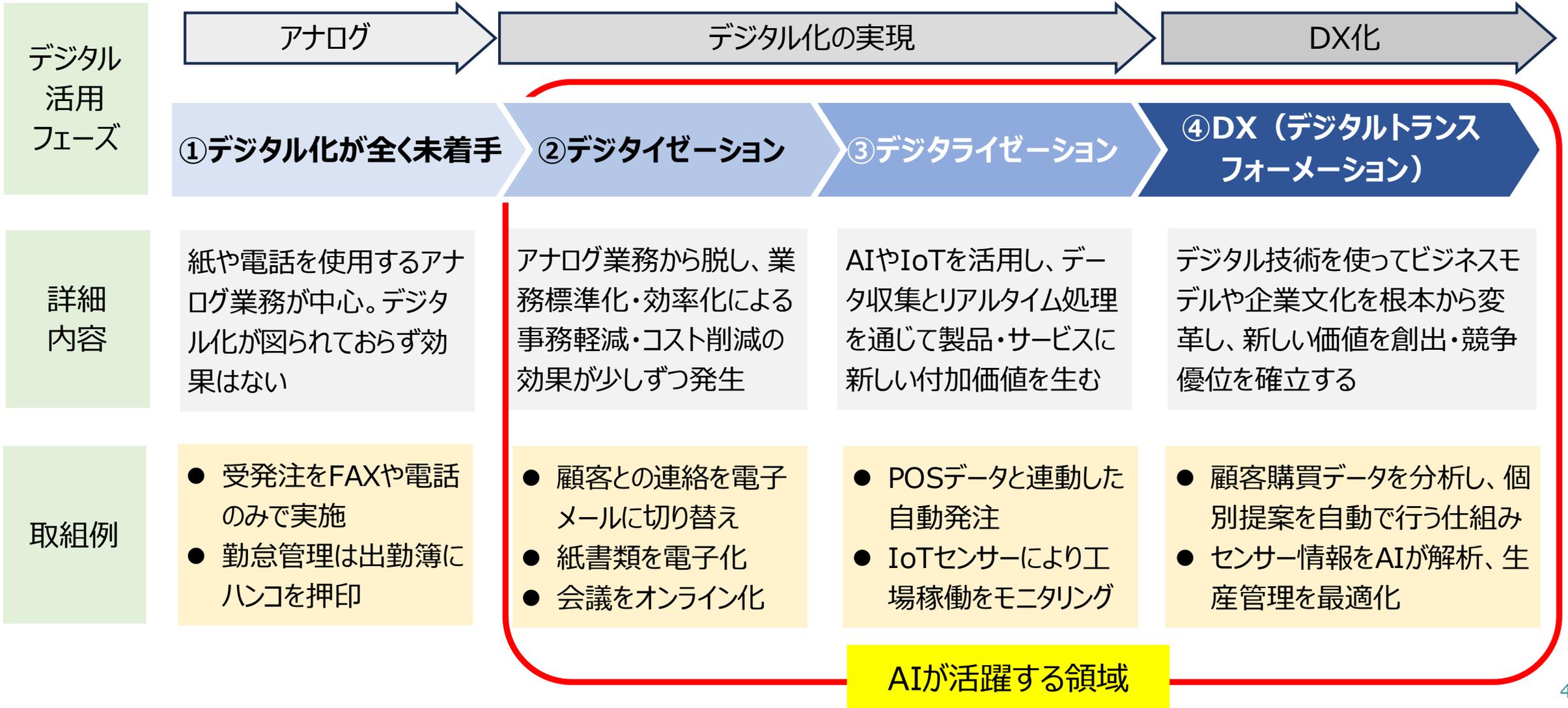
企業や個人の生成AI等の活用実態を把握し、企業で働く人のデジタル化・生成AI活用を後押しする手掛かり・方向性を探る。

【調査手法】

- 文献調査：中小企業白書・情報通信白書ほか
- 企業向けアンケート：〔対象〕1都3県に立地する企業4,071社、〔回答数〕664件(うち千葉県立地企業460件:69.3%)、〔時期〕令和7年5～6月
- 働く人向けアンケート：〔対象〕企業で働いている1都3県居住の18～69歳の男女2,000名、〔時期〕令和7年5月
- 企業及び支援機関へのヒアリング調査〔12社・団体〕

デジタル化の活用フェーズの整理と生成AIの領域

デジタル化の4フェーズと生成AIの活躍領域

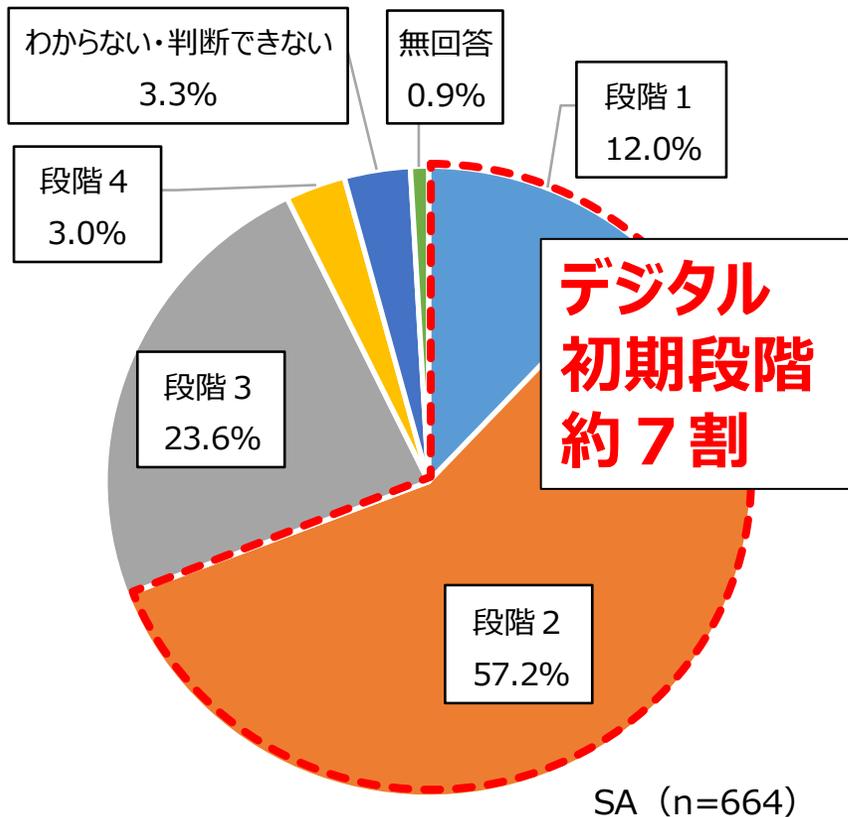


【企業向けアンケート調査結果】

(1) 企業のデジタル化フェーズの状況

- デジタル化フェーズは、初期段階（段階1～2）が約7割を占めるが、特に中小・小規模企業が多い。デジタル浸透・DX（段階3～4）は大企業が約6割だが、中小・小規模企業は2～3割にとどまる。

デジタル化フェーズの状況



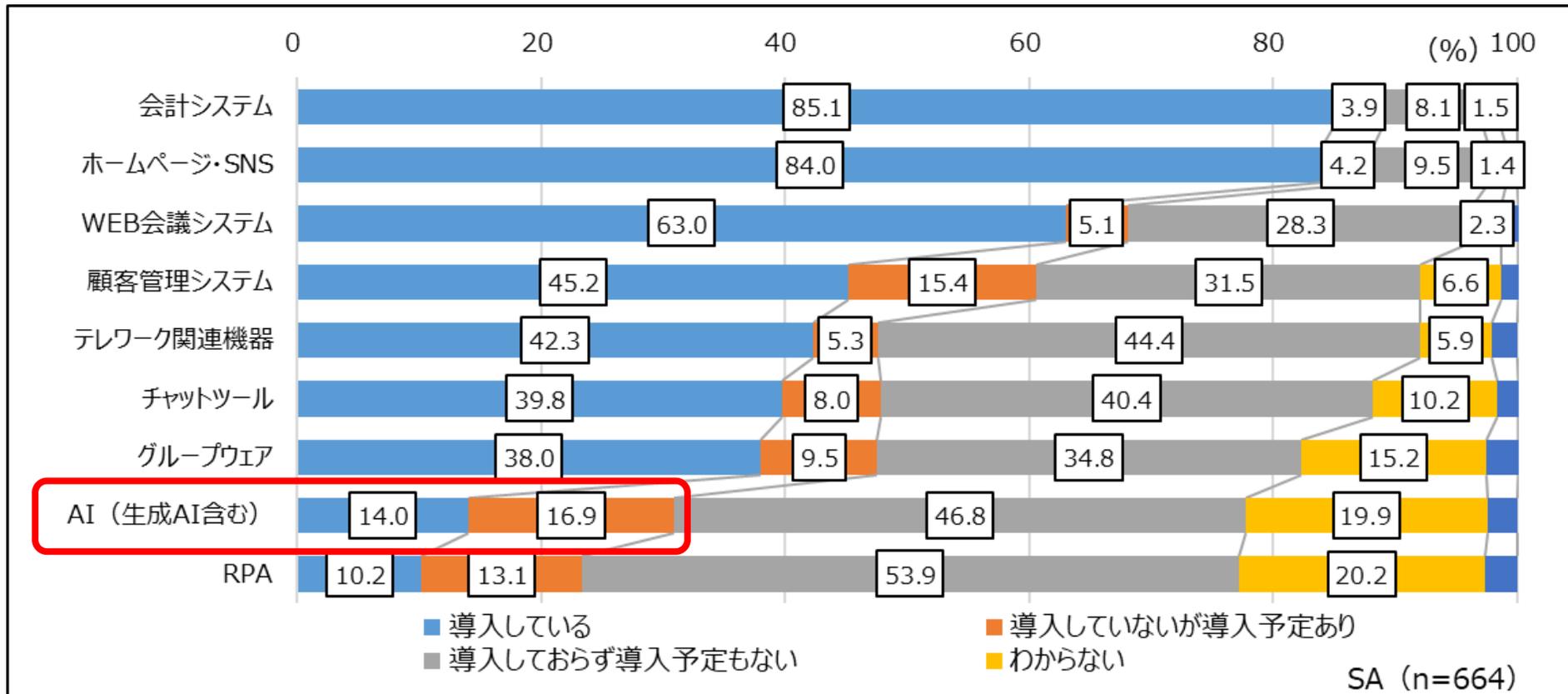
企業規模別にみたデジタル化フェーズ

	回答数	アナログ・デジタル初期 (段階1.2)	デジタル浸透・DX (段階3.4)
全体	664	69.1%	26.6%
大・中堅企業	27	37.0%	62.9%
中小企業	405	66.9%	29.2%
小規模企業	229	77.2%	18.4%

(2) デジタルツールの導入状況

- 会計システム、ホームページ・SNSは8割以上と浸透しているが、効率的な働き方や社内情報共有化などにつながるデジタルツールの導入は4割程度にとどまる。
- 生成AIは導入済が14.0%で、予定ありを含めても3割強にとどまる。

デジタルツールの導入状況



(3) 生成AIの導入状況の詳細

- 導入済（予定あり）は大・中堅企業が7割強だが、中小～小規模企業は2～3割と格差。
- 業種では、「その他」、「サービス業」が多く、地域では東京都立地企業で多くみられる。

属性別の生成AIの導入業況

		回答数	導入済・ 導入予定あり	導入しておらず 導入予定もない	わからない
全体		664	30.9%	46.8%	19.9%
規模別	大・中堅企業	27	74.1%	11.1%	11.1%
	中小企業	405	34.1%	46.7%	17.5%
	小規模企業	229	20.1%	51.5%	25.3%
業種別	卸売・小売業	109	28.4%	41.3%	26.6%
	製造業	124	30.7%	50.8%	16.1%
	建設・不動産業	160	23.2%	51.9%	23.8%
	サービス業	91	34.1%	51.6%	14.3%
	その他	170	38.2%	41.8%	16.5%
地域別	千葉県	460	28.2%	48.0%	21.3%
	東京都	95	44.2%	38.9%	16.8%
	埼玉県	57	26.3%	54.4%	14.0%
	神奈川県	44	27.3%	50.0%	20.5%

(4) 業績の改善とデジタル化フェーズの関係

- 売上高、経常利益、人員過不足が昨年度比で改善した先のデジタル化フェーズをみると、段階 3 または 4 が最も多く、段階 1 が最も少なくなるなど、デジタル化フェーズの進展と業績改善には正の相関性がみられた。

業況の改善度合いとデジタル化フェーズの関係性

	回答数	売上高	経常利益	人員過不足
全体	664	41.6%	37.2%	17.2%
段階 1	80	 30.1%	 27.6%	 7.6%
段階 2	379	42.8%	37.5%	16.3%
段階 3	157	47.1%	 45.2%	 26.8%
段階 4	20	 50.0%	35.0%	10.0%

(5) 生成AI導入と業績向上の関係性

- デジタルツールの導入による業績向上の成果をみると、約半数で業績向上の成果が上がっている。
- 生成AIを導入している先ほど、業績向上の成果が上がっている先が多い。

生成AI導入と業績向上との関係性

	回答数	業績向上の成果が あがっている	期待したほどの成果 はあがっていない	わからない・ 判断できない
全体	631	51.3%	17.9%	30.7%
生成AIを導入済	90	81.1%	8.9%	10.0%
生成AIの導入予定あり	111	65.8%	20.7%	13.5%
生成AIの導入予定なし	302	40.7%	20.5%	38.7%
わからない	128	43.0%	15.6%	41.4%

(6) 生成AIソリューションの導入状況

- メールや議事録等の文章作成の補助・支援は、比較的生成AIの導入が早い傾向にあるが、その他の生成AIソリューションは未導入が8割以上となっており、企業における利活用はまだ限定的。

生成AIソリューションの導入状況

	業務で 使用中	トライアル中/ 検討中	導入していない
メールや議事録等の文章作成の補助・支援	19.3%	14.6%	66.1%
広報コンテンツ（画像、キャッチコピー、ロゴ等）の作成	9.4%	11.1%	79.5%
事業や商品の企画におけるアイデア出し、シミュレーション	7.1%	10.2%	82.7%
プログラミングコードの生成やエラーやバグの解決	6.4%	7.8%	85.9%
社内向けヘルプデスク機能（マニュアル等の問合せ対応）	6.2%	11.8%	82.0%
申請書や届出書などの自動作成	5.1%	13.0%	81.9%
画像認識、外観検査（検品の自動化や異常検知など）	4.2%	8.8%	87.0%
顧客対応の自動化（カスタマーサポート、チャットボット等）	2.8%	9.4%	87.8%

(7) 関心のあるAIソリューション

- 文書作成補助に加えて、申請書の自動作成や社内向けヘルプデスク機能、広報コンテンツの作成などは関心が高いため、今後生成AIソリューションとしての需要の高まりが予想される。

関心のある生成AIソリューション（未導入のもの）

	関心がある	関心がない	対象業務なし
申請書や届出書などの自動作成	52.6%	37.1%	10.3%
メールや議事録等の文章作成の補助・支援	43.0%	44.1%	12.9%
社内向けヘルプデスク機能（マニュアル等の問合せ対応）	37.0%	42.0%	21.0%
広報コンテンツ（画像、映像、キャッチコピー、ロゴ等）の作成	33.0%	42.9%	24.1%
画像認識、外観検査（検品の自動化や異常検知など）	30.8%	36.7%	32.4%
事業や商品の企画におけるアイデア出し、シミュレーション	28.2%	46.2%	25.6%
顧客対応の自動化（カスタマーサポート、チャットボット等）	27.0%	48.1%	24.9%
プログラミングコードの生成やエラーやバグの解決	20.0%	43.7%	36.4%

(8) デジタル人材の不足状況

- 約 8 割の企業でデジタル人材が不足している
- 規模別には大企業で、業種別には製造業でデジタル人材を不足とする回答が多い。

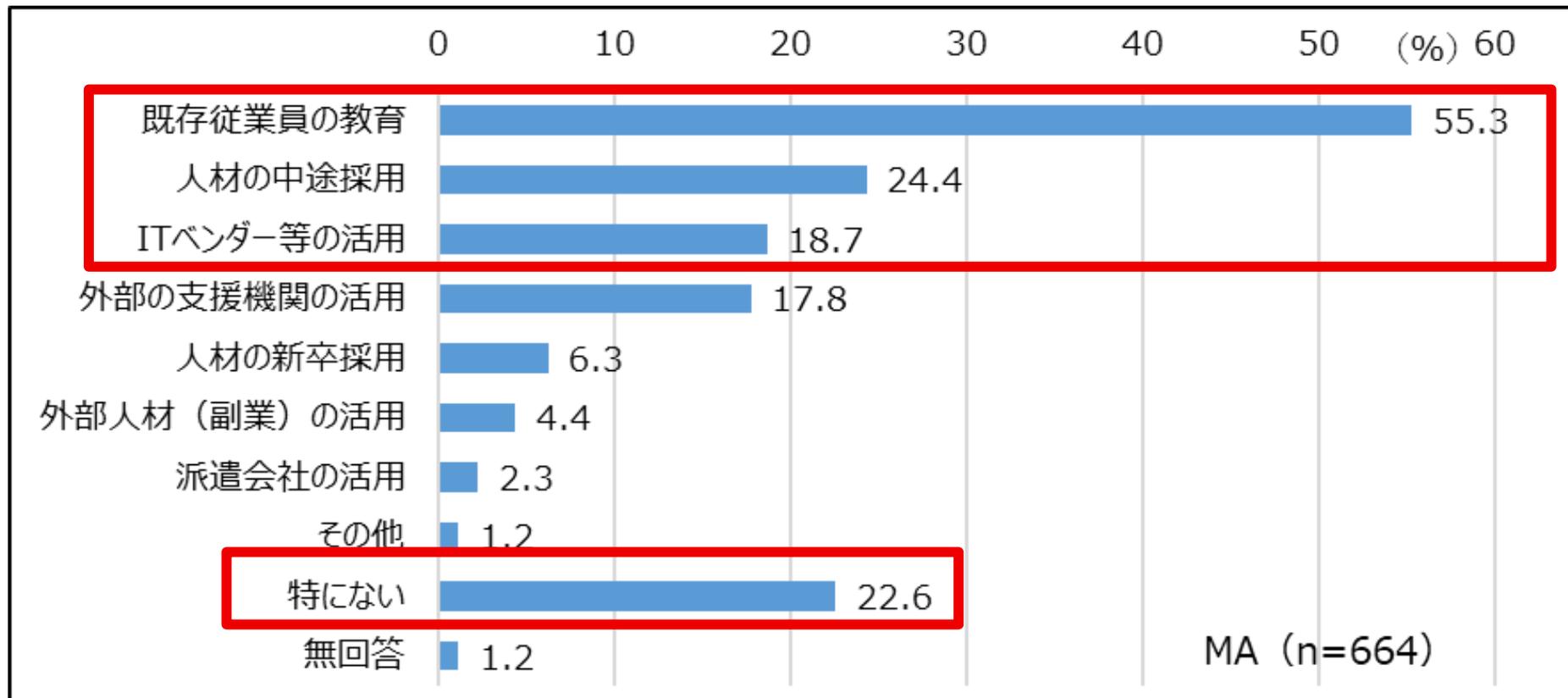
デジタル化を主導する人材の過不足感

		回答数	少ない	適正	多い
全体		664	78.5%	16.1%	4.1%
規模別	大・中堅企業	27	88.9%	7.4%	3.7%
	中小企業	405	82.2%	12.8%	3.5%
	小規模企業	229	71.2%	22.7%	5.2%
業種別	卸売・小売業	109	78.0%	17.4%	3.7%
	製造業	124	82.2%	14.5%	2.4%
	建設・不動産業	160	76.3%	17.5%	5.6%
	サービス業	91	75.9%	15.4%	6.6%
	その他	170	80.0%	15.3%	3.0%

(9) デジタル人材の確保に向けた手段

- デジタル化を主導する人材を確保する手段は、「既存従業員の教育」が最も多く、「人材の中途採用」、「ITベンダー等の活用」が続くが、「特にない」(22.6%)とする回答も多い。

デジタル化人材の確保手段



(10) デジタル人材の不足への対策

- デジタル人材育成に向けた研修を、「受けてみたい」が半数弱で、規模の大きい企業ほど意欲は強いが、中小企業で約5割、小規模企業で約4割と一定のニーズがある。
- 千葉県の立地企業は東京都に次いで多く、半数弱で研修の受講意向がみられた

ITリテラシー向上に向けた研修の受講意向

		回答数	受けてみたい	受けてみたい と思わない	わからない
全体		664	46.2%	29.8%	22.4%
規模別	大・中堅企業	27	77.8%	14.8%	7.4%
	中小企業	405	48.2%	26.6%	23.5%
	小規模企業	229	39.7%	37.1%	22.3%
地域別	千葉県	460	47.4%	28.9%	22.4%
	東京都	95	52.6%	25.2%	22.1%
	埼玉県	57	35.1%	38.6%	22.8%
	神奈川県	44	31.8%	40.9%	27.3%

企業向けアンケート調査からわかったこと

- ◆大企業ほど、デジタル化・生成AI活用が進む一方、中小企業は出遅れ感がある。中小企業は、デジタル化・生成AI活用を「自分ごと」化できていない先が多い。
- ◆デジタル化の進展と企業の業績や人手過不足の改善については正の相関がみられる。規模間格差を加味すると、デジタル化・AI活用は、大企業と中小企業との格差を拡大させる方向で作用しており、中小企業の背中を押す必要性がある。
- ◆生成AIの活用は緒についたばかりだが、中小、小規模企業も含めて今後の導入意欲は高まっている。
- ◆デジタル人材が大幅に不足しており、既存従業員の教育に向けた研修ニーズが強い。生成AIソリューションの提案とともに人材育成への支援も求められる。

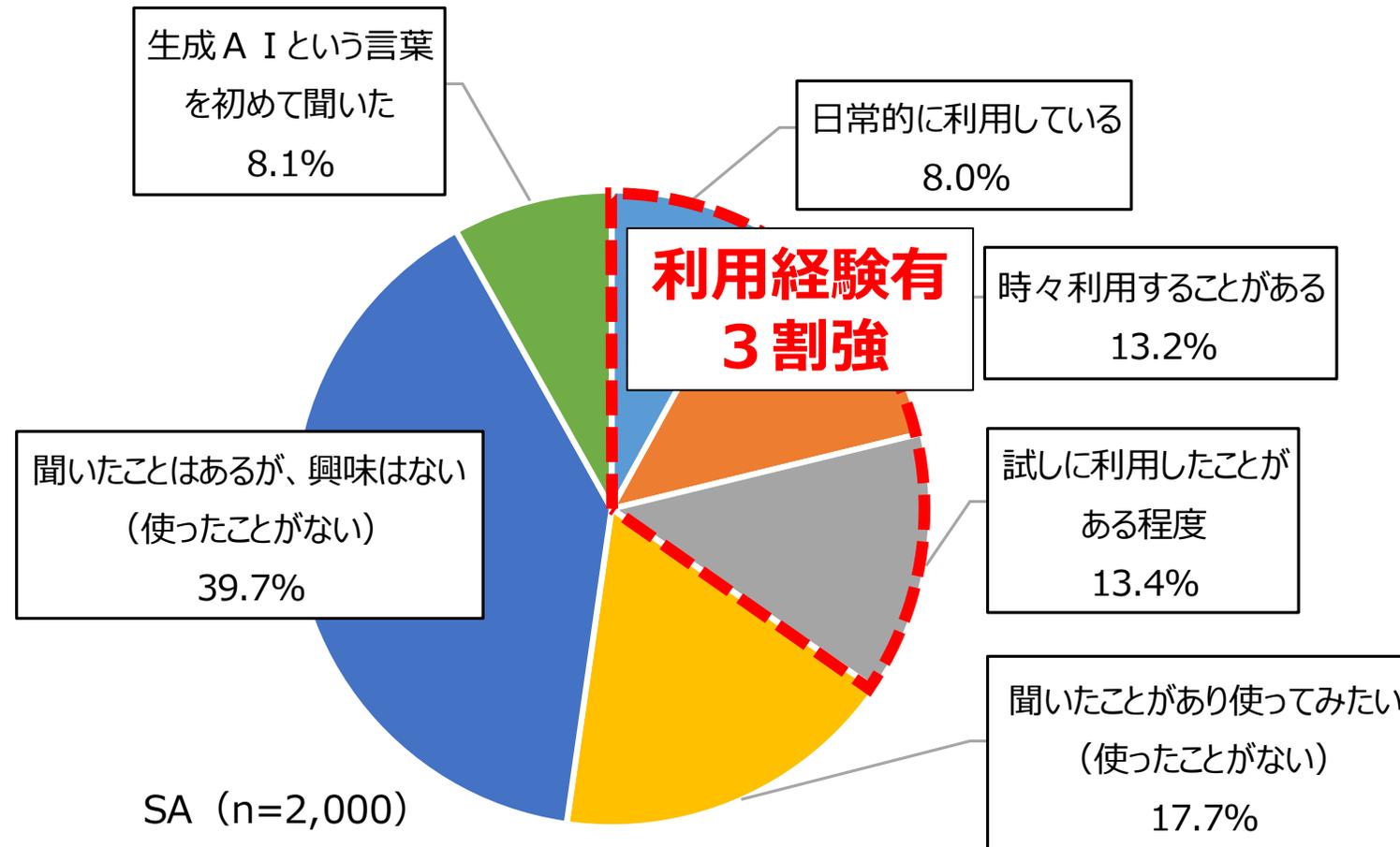
【働く人向けアンケート調査結果】



(1) 生成AIの利用状況

- 仕事の現場においてChatGPTなどの生成AIの利用経験がある人は3割強にとどまる。
- 興味がないが4割弱、生成AIを初めて聞いたという人も1割弱いる。

仕事での生成AIの利用状況



(2) 属性別の生成AIの利用状況

- 学歴や役職、年収が高いほど、またホワイトカラー的な働き方の方が生成AIの利用経験者が多い。
- 業種では、情報通信業、金融・保険業で、所属部署では企画・マーケティング部門が多い。

仕事での生成AIの利用状況（属性別）

		回答数	利用したことがある	利用したことがない
全体		2,000	34.6%	65.5%
学歴	高校・短大卒	454	17.6%	82.4%
	専門学校卒	236	20.3%	79.7%
	大学卒	1,150	42.0%	57.9%
	大学院卒	133	57.9%	42.1%
	役職	契約・派遣・その他	601	19.4%
一般社員	一般社員	885	34.7%	65.3%
	課長・主任	367	51.2%	48.8%
	役員・部長	147	55.1%	44.9%
	年収	300万円未満	488	18.1%
300～500万円	300～500万円	532	35.4%	64.7%
	500～750万円	359	48.2%	51.8%
	750万円以上	286	56.7%	43.4%
	働き方	ブルーカラー的な働き方	663	14.3%
ホワイトカラー的な働き方	1,337	44.7%	55.4%	

		回答数	利用したことがある	利用したことがない	
業種	卸・小売業	245	28.9%	71.0%	
	製造業	261	41.7%	58.1%	
	建設・不動産業	157	35.7%	64.4%	
	サービス業	483	29.4%	70.5%	
	情報通信業	233	58.3%	41.7%	
	医療・福祉	134	22.4%	77.6%	
	金融・保険業	105	45.7%	54.3%	
	その他業種	382	26.2%	73.9%	
	所属部署	営業部門	293	38.2%	61.7%
		企画・マーケティング・開発部門	156	64.7%	35.2%
製造・物流・購買部門		219	28.3%	71.7%	
人事・経理・法務・総務部門		333	41.7%	58.2%	
情報システム部門		160	58.2%	41.9%	

(3) 生成AIの利用による生産性の向上

- 生成AIの利用によって生産性向上を実感している割合は7割強。特に「アイデア出し」や「文字起こしや議事録の作成」などで、生産性向上を実感している人が多い。

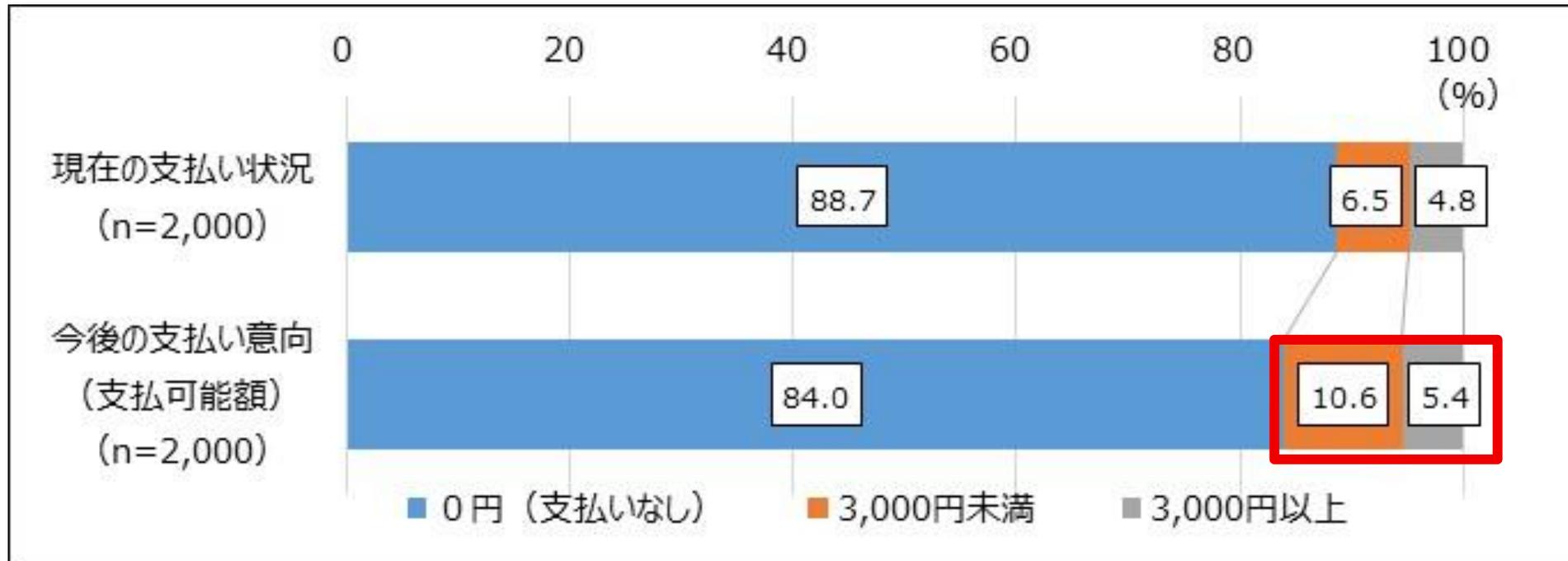
仕事で利用している生成AIのうち、生産性が向上していると感じる割合

	回答数	向上していると感じる	向上していないと感じない	わからない
全体	692	73.7%	15.6%	10.7%
アイデア出し	252	86.5%	8.7%	4.8%
文字起こしや議事録の作成	120	85.8%	11.7%	2.5%
業務の判定や診断、予測、異常検知	35	85.7%	2.9%	11.4%
画像やイラストの作成	115	84.3%	8.7%	7.0%
文書の作成	365	84.1%	10.1%	5.8%
プログラムコードの作成	82	82.9%	10.9%	6.1%
翻訳	172	81.4%	11.1%	7.6%
動画や音楽、音声の作成	43	81.4%	13.9%	4.7%
情報収集・整理	324	80.8%	11.1%	8.0%

(4) 生成AIの利用に現在の支払い金額及び今後の意向

- 現状の利用者の9割弱が無料タイプの利用となっている。
- 生成AIの機能向上を見据え、将来的には有料プランへ変更する可能性が意識されている。

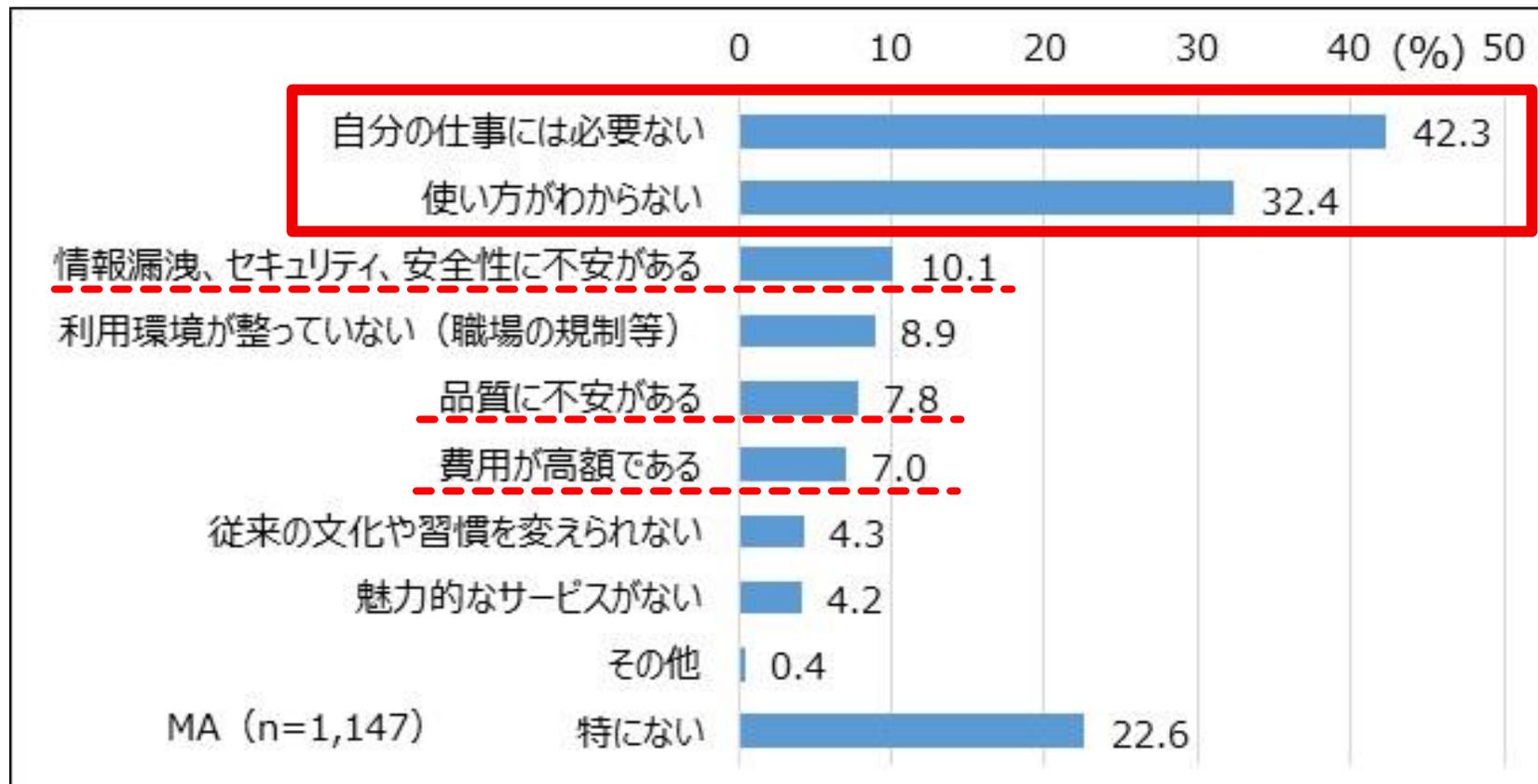
生成AIの利用に現在の支払い金額及び今後の意向



(5) 仕事で生成AIを利用しない理由

- 生成AIを使わないのは、必要性のなさや使い方のわからなさが大きな理由。
- 安全面の懸念や費用については、現実的にはさほど利用のハードルにはなっていない。

仕事で生成AIを利用しない理由



(6) 生成AI利用に伴うリスクや課題への不安・心配

- 生成AI利用に伴う不安や心配は「誤情報の生成と拡散」と「機密情報の漏洩」が6割弱が多い。
- 生成AIの利用経験のある人は、ない人と比べて不安・心配の度合いが高い。特に「著作権侵害」「データの品質管理」で差異が大きい。

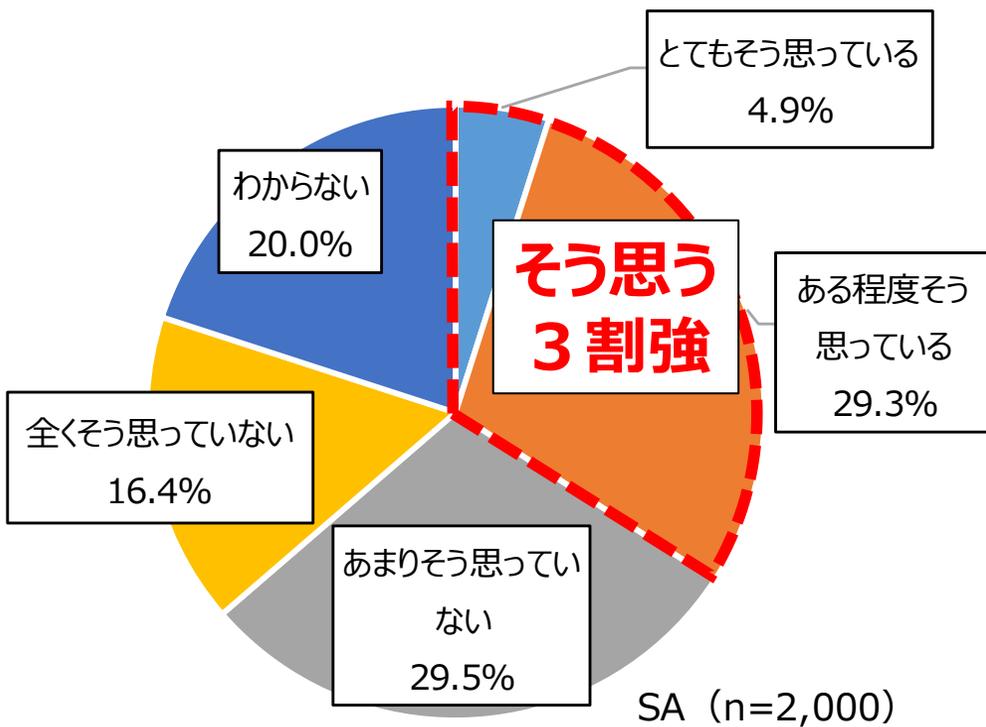
生成AI利用のリスクや課題に対する心配・不安（生成AIの利用状況別）

	全体	生成AIの利用動向		
		利用したことがある	利用したことがない	差異
誤情報の生成と拡散	57.1%	63.0%	54.0%	9.0%
機密情報の漏洩	56.8%	63.2%	53.4%	9.7%
著作権侵害	54.2%	60.8%	50.6%	10.2%
サイバー攻撃の高度化	53.4%	57.7%	51.1%	6.6%
データの品質管理	52.3%	59.0%	48.8%	10.2%
判断力と創造性の低下	50.9%	55.8%	48.3%	7.5%
AI教育の不足	50.5%	55.3%	47.9%	7.5%
社会的な悪影響	47.4%	50.7%	45.6%	5.1%
偏見や差別の助長	47.1%	50.7%	45.1%	5.6%

(7) 生成AIの導入・浸透により自身の仕事が奪われると思うか

- 生成AIの導入・浸透により自身の仕事が奪われると思う割合は3割強。内訳をみると、「課長・主任」、「ホワイトカラー」で、また年収が高いほど、その割合が多い。

生成AIに自身の仕事が奪われると思うか



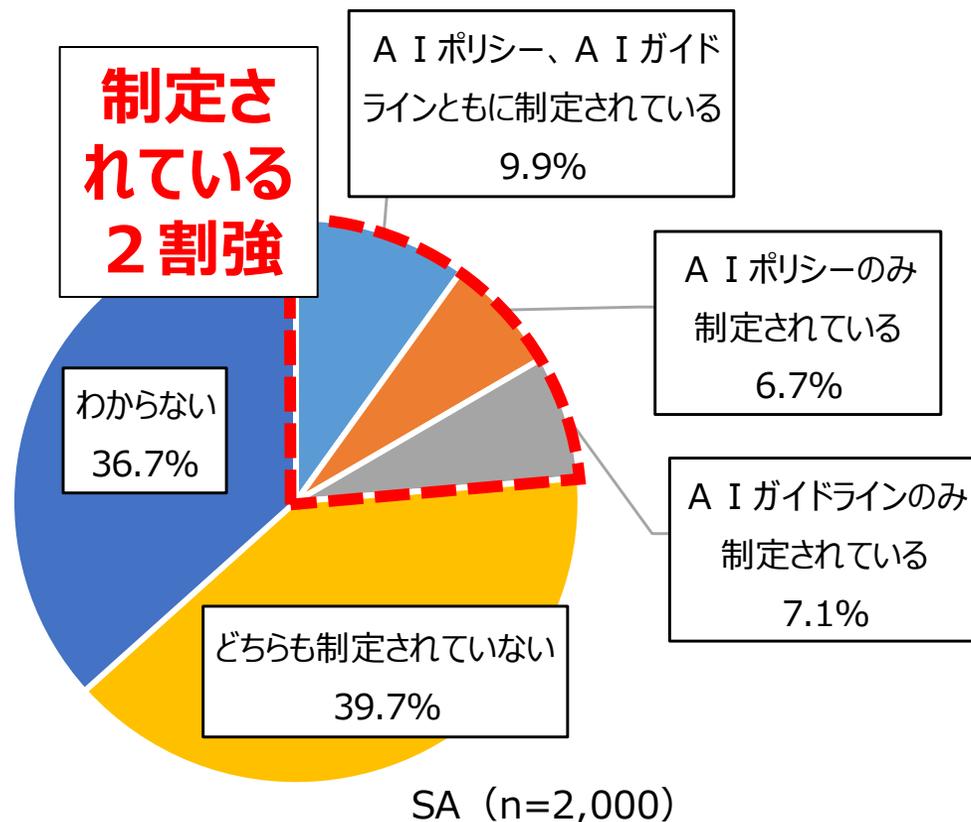
生成AIに自身の仕事が奪われると思うか (属性別)

		回答数	そう思っている	そう思っていない	わからない
全体		2,000	34.2%	45.9%	20.0%
役職	役員・部長	147	36.7%	56.5%	6.8%
	課長・主任	367	41.4%	45.3%	13.4%
	一般社員	885	35.3%	42.2%	22.5%
	契約・派遣	601	27.3%	49.1%	23.6%
働き方	ホワイトカラー	1,337	41.2%	41.5%	17.3%
	ブルーカラー	663	19.9%	54.6%	25.5%
年収	300万円未満	488	33.4%	48.2%	18.4%
	300～500万円	532	36.4%	47.5%	16.0%
	500～750万円	359	37.1%	49.9%	13.1%
	750万円以上	286	42.6%	48.6%	8.7%

(8) 職場における生成AI利用ルールの制定状況

- 職場における生成AI利用に関するポリシーやガイドライン等のルールの制定状況は2割強にとどまる。
- ルールが制定されている職場で働く人は、生成AIを「利用したことがある」が7割強となるなど、ルール制定状況が社員の生成AI利用度合いに影響していることがわかる。

職場における生成AI利用ルールの制定状況



生成AIルールの制定状況と生成AI利用の関係性

		回答数	利用したことがある	利用したことがない
全体		2,000	34.6%	65.5%
制定状況	なんらかのルールが制定されている	474	74.9%	25.1%
	ポリシー、ガイドラインともに制定	198	83.4%	16.7%
	ポリシーのみ制定されている	134	73.9%	26.1%
	ガイドラインのみ制定されている	142	64.1%	35.9%
	どちらも制定されていない	793	26.8%	73.1%
わからない		733	16.9%	83.1%

働く人向けアンケート調査からわかったこと

- ◆生成AIを使うか使わないかにより、人々の生産性や所得の格差が広がるだけでなく、自身のさらされているリスクの認識が異なっていく。
- ◆仕事で生成AIを使った経験がある人は3割強だが、その7割強が生産性向上を実感。学歴や役職、年収が高い人ほど、利用度合いが高い。
- ◆生成AIを使わない理由は、仕事との関係に関する思い込みや知識の欠如に起因している。
- ◆生成AIを使った経験がある人は、生成AIのリスクをより強く認識するほか、自身の仕事を将来AIに奪われると考える割合がより高い。
- ◆職場でのAI利用ルールの制定はまだ一部にとどまる。働く人が安心してAIを使える環境を整備することが、働く人、企業の実産性向上に資するため重要性が高い。

【企業ヒアリング調査結果】



最近アナログから脱却してデジタル化、AI活用を進めている事例

立地：千葉市中央区 業種：建設業 設立：1996年 従業員数：15名

- 本社移転に伴って、それまでのアナログを一掃したことで、現在はフェーズ2のデジタイゼーションの段階にあると認識している。
- それまでは建設業によくみられるようにほとんどアナログ管理としていたが、紙からデジタル共有を進めたり、事業多角化に伴ってWEB会議を導入した。主に、周囲の経営者から教えてもらったり、セミナーなどで学んだことなどを実践していった。
- 人員構成の若返りを図る中、優秀な若手人材を確保するためには、会社としてデジタル化や生成AIの活用を進めることは必須だと考えている。
- 生成AIは主にChat-GPTにて、会議の議事録づくりに重宝している。実際の会議録をAIに読み込ませて、それを要約してもらおう形で保存しているが非常に効率的で、過去の人手をかける手法には戻れないと感じる。また、事業のアイデア出しに利用したり、講演資料などでのデータ収集にも活用している。
- 今後は社内向けのチャットボックスや企画のアイデア出しなどにも使っていきたい。また、既存の当社の決算や受注データなどをAIに読み込ませ学習させたうえで、当社ならではの企画書や申請書などの作成が可能であれば、そのような機能も是非使ってみたい。
- もっとも、会社全体としては、浸透の初期段階だと思っており、導入によって大きな成果が上がるまでは至っていない。また、情報セキュリティの負担の大きいと感じているが、これは、専門のIT担当者がいないことに由来している。社員15人の会社なので専属者は置くことはできず、セキュリティに関するスキルの不足を感じている。

社内では生成AIをフル活用するとともに、独自の保守メンテナンス生成AIシステムを開発した事例

会社名：(株)吉野機械製作所 立地：千葉市緑区 業種：プレス機械製造業 設立：1948年 従業員数：60名

- 生成AIは積極的に活用すべきだと考えており、自身もChatGPTの有料プラン（Pro：月3万円）に加入しており、自分に近い人から有償タイプに切り替えて利用を推奨している。また、経営戦略室で内規ルールを策定しており、今後、生成AIについても情報セキュリティレベルを定める予定。
- 2025年に東京大学発ベンチャー企業と共同で、プレスブレーキの異常兆候を検知し、生成AIでメンテナンス方法を対話形式で示すシステム「保守メンテナンスの生成AIシステム」を開発した。機械の故障などにつながる異常を細かく検知し、状況に応じた対策も示す。
- 新システムは通常時や、作業で大きな負荷がかかったときなどに、機械がどのような状態だったかなどを学習。状況を常に監視し、データに基づいて異常の有無を判定する。状況を表す「実効負荷率」「稼働率」「消費電力」など項目ごとに正常、やや値が大きい日がある、といった判断や数値の解説を示す。
- 中小・零細企業では機械のメンテナンスの知見を持つ人材の不足や高齢化が深刻で、専門性が高く、熟練の目が必要な故障予防のメンテナンス作業は特に負担が重いため、その対策に活用できるシステムである。
- 2026年4月の販売を予定。販売先企業の規模は問わず、費用もできるだけ抑えて、多くの企業が使えるようにし、千葉を起点に全国での展開を模索している。生成AIを生かして機械のメンテナンスを担うシステムは、他にほとんど例がない。

本日はご清聴いただき、ありがとうございました。

今日お話ししたアンケート調査なども含めたレポート「企業のデジタル化とAI活用」は、当社HPに掲載しておりますので、関心のある方はアクセスください。
また、個別のお問い合わせなどありましたら、下記までご連絡をお願いします。

株式会社 ちばぎん総合研究所
調査部 副部長 観音寺 拓也



261-0023 千葉市美浜区中瀬1-10-2

T E L : 043-351-7430 F A X : 043-351-7440

E - mail : kannonji@crinet.co.jp